

<h1>SDT</h1>	<h2>制振工学研究会通信</h2> <p>SOCIETY OF DAMPING TECHNOLOGY NEWS</p> <p>2016年 4月号</p>	<p>2016年 4月 1日発行          編集 集：会報編集委員会          編集責任者：小白井 敏明          担 当 者：山口 道征          URL <a href="http://www.sdt-jp.com">http://www.sdt-jp.com</a>          E-Mail: <a href="mailto:info@sdt-jp.com">info@sdt-jp.com</a></p>
--------------	-------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ◇お知らせ

・本通信により会員各位に有用な情報を提供すべく毎月の編集会議では頭を悩まして議論しております。つきましては、ここで取り上げてほしい事がございましたらそのご要望を次のアドレスまで是非お寄せください。

E-MAIL: [yamagu@pc.highway.ne.jp](mailto:yamagu@pc.highway.ne.jp)

### ◇研究会の行事案内

開催日時	開催地・会場	名 称	内 容
-	-	-	-

### ◇分科会・WG・委員会の予定

開催日時	開催地・会場	名 称
16. 04. 08 13:30~17:00	三井化学(株)袖ヶ浦センター	材料技術分科会
16. 04. 14 13:00~17:00	B&Kジャパン2F, C&D会議室	計測・評価技術分科会、音響管計測WG2
16. 04. 15 15:00~17:00		会報編集委員会

### ◇会員消息 (2016年 4月 1日現在)

○会員数		○退会者
法人会員	26 社	-
個人会員	48 人	1人
学生会員	1 人	-

### ◇関連学協会等の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	主催団体及び内容
16. 04. 21	東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区)	2016年春季研究発表会	日本騒音制御工学会 <a href="http://www.ince-j.or.jp/recital">http://www.ince-j.or.jp/recital</a>

### ◇技術情報

次ページをご覧ください。

# クリアな声 難聴の君へ

## 話し手の音声変換機器、利用広がる

難聴者にも人の話し声が聞き取りやすくなる機器を、東京の会社が開発した。補聴器のように難聴者が身につけるのではなく、話し手が使うことを想定したもの。健常者が歩み寄る、という発想だ。開発した社長も、父親と祖母が難聴だった。1日に障害者差別解消法<sup>②</sup>が施行されるなか、学校や病院などで利用が広がっている。

「Jo・in・join」  
東京都台東区立柏葉中学校の難聴学級の教室。英語教師の渡部秀雄さん(68)が、生徒の松井謙太さん(18)に話しかけた。机の上に置かれたのは、音響機器設計開発販売会社「ユニバーサル・サウンドデザイン」(東京)の対話支援機「COMMUN」(コミュニケーション)。

渡部さんの胸元のピンマイクで拾った声が、直径約6センチのスピーカーからクリアな声になって聞こえる。松井さんも「Jo・in・join」と、きれいに復唱した。生まれた時から難聴の松井さんは、コミュニケーションについて「小さい音も聞こえやすく、授業になくてはならないもの」という。

30年以上にわたって難聴教育に携わってきた同校の山口淳さん(62)も「難聴者が聞き取りづらいk、s、tの子音も聞き取れるのは驚いた。生徒の英語への苦手意識も薄まる」。

**脱サラ 開発専念**  
コミュニケーションを開発したのは、中石真一(まこと)路さん(43)。レコード会社に勤務していた当時、ライブ会場より遠くまで音を届ける仕組みを研究中、大学教授から「難聴者にも聞こえやすく」と教えられた。

同社で開発を始めたが、社内の事情でストップ。それでNPPOを立ち上げ、独自に継続した。ちょうど東日本大震災が起きたころ。「自分は何のために仕事をするのかが問われた時期。ここでもちやいけなと思うた」

2013年6月にレコード会社を退社。ユニバーサル社を立ち上げ、社長となって開発に専念した。

高い性能を維持しつつ、いかに小型化するかで苦労した。音をまっすぐ届ける性能と、身近にあっても違和感がないデザインの両立を目指した。完成したコミュニケーションは高さ15センチの卵形。使用する時は卵を割るようにアンプとスピーカーを分け、組み立てる。

13年12月に完成後、佐賀県が試験的に21台を購入。評判が上がり、いまでは各地の病院や学校、公共施設など約1千カ所に2800台ほどが設置されている。全店舗に配置を決めた金殿機関や、お経や説法を禮堂に届けようと設置した寺もあるという。

### 人生変えられる

中石さんには強く印象に残った時期がある。

「自分と話したくないのかな」と思った時期もあったという。その父が最近、コミュニケーションを購入したと知った。「健常者の方が歩み寄るなんて、よく気がついたな」。そんな言葉をかけてくれた。

コミュニケーションは購入前、効果を確認するための体験が必要。価格は16万3千〜19万5千円(税別)。補聴器や人工内耳を利用する18歳以下は3割引きで購入できる。問い合わせは同社(03・6427・1467)へ。(山本亮介)

**② 障害者差別解消法**  
障害者の差別禁止や社会参加を促す国連の障害者権利条約の批准に向け、2013年に成立した。障害を理由とした差別の禁止を国、自治体や民間事業者に義務づける。また、障害のある人からの求めに、筆談など負担が重すぎない範囲での対応を国や自治体に義務づけ、民間事業者に努力するよう義務づける。

対象は障害者手帳を持つ人に限らず、難聴など日常生活に制限を受けている人すべて。対象は障害者手帳を持つ人に限らず、難聴など日常生活に制限を受けている人すべて。対象は障害者手帳を持つ人に限らず、難聴など日常生活に制限を受けている人すべて。

る出来事がある。  
熊本県の難聴の男子小学生がコミュニケーションを使うようになってから書いた作文を、男児の母親から見せてもらった。「これまでお母さんはいつも怒っているんだと思っていました。でも、コミュニケーションで初めてお母さんの声を聞いたとき、とても優しい声だと思いました」

母親は男児のためを思い、いままで耳元で大きな声で話しかけてきた。男児はこれを「怒っている」と勘違いしていたのだ。

涙を流す母親に、中石さんは思った。「コミュニケーションは多くの人の人生を変えられる。男児はいま、健常者の同級生と一緒に同じ教室で授業を受けている」。

中石さんの父親と祖母も難聴だった。子どものころ、父に話しかけても返事がなく、「自分と話したくないのかな」と思った時期もあったという。その父が最近、コミュニケーションを購入したと知った。「健常者の方が歩み寄るなんて、よく気がついたな」。そんな言葉をかけてくれた。

コミュニケーションは購入前、効果を確認するための体験が必要。価格は16万3千〜19万5千円(税別)。補聴器や人工内耳を利用する18歳以下は3割引きで購入できる。問い合わせは同社(03・6427・1467)へ。(山本亮介)



① 渡部先生(左)の音がコミュニケーションのスピーカー(中央奥)から松井さんへ届く＝東京都台東区  
② コミュニケーションを開発した中石さん。手前に並ぶうち、中央の二つは完成品。左右は試作品＝東京都港区